

## 2 経管栄養関係の事例 ～ 注入量について ～

### 発生時の状況と経過

ペースト食を胃ろうから注入中、100 cc×2 回注入を終え、最後 110 cc 残った。指示書の指示は 100 cc 注入、10 分休憩であるが、残り 110 cc を一度に入れても大丈夫だと思い、担任に「最後 110 cc なので入れますね」と声をかけて注入した。

結果、指示されている一回の最大注入量より 10cc 多く注入した。

### 発生時の対応と処置

最後の注入時に、確認が不足して 110 cc 入れてしまったことを報告し謝罪した。本人の体調に変わりはないが、継続して観察した。

### 考えられる原因や背景

指示については理解していたが、13 時(ペースト食を注入できる最終時間)までの残り時間が少なくなり、以前に 100 cc を少し超えて注入してもよいと言われていたと思い注入した。実際には、看護師間や担任で 100 cc 超えてもよいという共通理解はとれていなかった。問題が発生したときに、看護師間や担任と確認するという姿勢が不足していた。

### 再発防止に向けた対策・改善点

- ・問題が発生したときは、看護師間や担任と確認する。
- ・保護者から注入量が減らないように柔軟に対応してほしいという申し出を受け、次回受診の際に、「100 cc ずつ注入するが、最後に残った分〇〇cc までは合わせて注入してよい」等、指示書に書き加えていただくのはいかがでしょうかと提案し、保護者の同意を得た。

### ポイント！

- 手順は覚えられないので、誰でも分かるように張り紙をするか、その都度確認をすることが大切です。
- 確認は声掛けでなく、指示書で行いましょう。